

「研究テーマ」

新聞コラム・社説を利用し、文章力さらに現代社会を読み解く力を身につける

兵庫県立伊丹高等学校 校長 秋田 久子

教諭 柘田 安史

(1) はじめに

○本校のN I E

本校は平成24年度から実践校の指定を受け、本年度は2年目の実践となった。各学年の総合的な学習の時間の中での取り組みと、広報委員を中心とした日々の取り組み、テーマを決め継続的に記事を追いかけた実践に関して報告する。

○新聞の置き場所と整理の方法

本年度は1年間を通じて利用するため5～7月、9～1月の期間、毎日3紙の新聞を購読した。

新聞の置き場所は昨年と同じ、本校の小会議室前の廊下とした。北館と本館を結ぶこの2階廊下は、生徒の生活動線となっており、昨年度N I E開始時に、新聞を広げられる大机と、折りたたみ式の机(2m×3台)、ロッカーを設置したが、それらを続けて利用した。

毎日の新聞の整理は、昨年度は担当教諭が行っていたが、本年度は広報委員(各クラス2人)が持ち回りで行った。毎日届けられる新聞(夕・朝刊のべ6紙)を事務室前から置き場所へ持っていく、その際に自分たちの気になる記事を切り取り、掲示板に貼っていった。新聞は最新の1週間分の朝夕刊はロッカーの上に、古いものは整理してロッカーの中に保管した。



大机  
保管用ロッカー



折りたたみ式机



広報委員用掲示板  
気になる記事を貼る

10月 消費税8%

伊豆台風

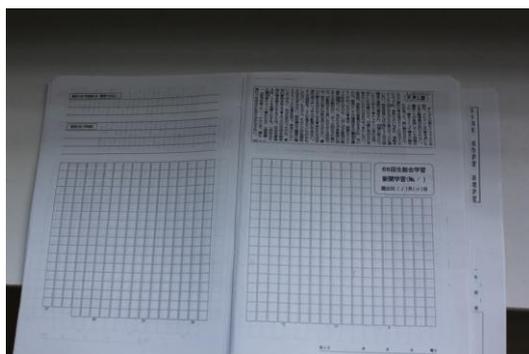
カープ優勝など

広報委員会を学期に一度開催し、順序を決め確認すると、後は生徒同士の連絡で1年間、ほぼうまく新聞は整理されていた。

## (2) 本校での実践の内容

### 1年の取り組み

1年320人全員に、基本的には総合的な学習の時間や週末課題の一つとして、[コラムの書き写し・見出し・要約・生徒各自の感想]を行わせた。(コラムは総合学習担当者が選択)年間34枚(1回2枚×17回)。



毎回、総合学習の担当者が集め、チェックし添削して返却する。通常学習の課題が多い中、生徒・担当者ともに単純作業と化すこともあるが、回数を重ねるごとに徐々に漢字や言葉に対する意識も高まり、また現代社会を含めた様々な授業で新聞からの意見が出るなど効果が見られた。

### 2年の取り組み

本校では2年次から、総合的な学習の時間の授業内容が理系・文系で大きく変わるが、文系の生徒(約200人)を対象に各新聞社の社説(総合学習担当者が選択)を読み、要約・生徒各自の意見をまとめさせた。要約に関しては学年の総合学習担当者が要約例を発行し、生徒自身が自己添削を行った。年間30回程度。

また同じく文系の生徒は、自分の興味・関心のある分野に関して、新聞の切り抜きと自分の感想

を年間20回ほど行った。ともにノートに貼り総合担当者に提出。

実践の成果は、やはりすぐに表れるものではないが、現代文の授業であれば読み取りのスピードが上がる生徒が多く見られ、また英語のライティングで生徒自身が時事問題に関してエッセーを書く際に、その根拠となる部分にNIEで得た知識が表現されるなど、授業担当者からも好評であった。

### 広報委員の取り組み

毎日の新聞の整理、気になる記事の切り抜きとともに、「NIE定点観測」と銘打つての壁新聞の作成・掲示を行った。

#### 【実践の内容】

1・2年各8クラス 計16クラスで実施  
(10月末)

各クラス広報委員2人で自分たちのテーマを決める。ジャンルは基本的に自由。国際・医療・経済・スポーツ・政治・芸能・教育など。

(10月～1月)

自分たちの選んだテーマに関する新聞記事を集める。枚数は自由。専用の用紙に貼り、広報委員会責任者まで随時提出。

(1月)壁新聞の作成

新聞記事の掲載は3～4枚(序論・本論・結論を意識する)

「事件の起こりと現在の様子、今後の予想、調べてみての感想」などを、見る人の視点を意識して記入し、見出しやレイアウトを工夫する。

〈2月〉各学年廊下に掲示 計16枚



〈秘密保護法案〉



〈ネットアプリ〉

各クラスのテーマは、「アベノミクスとTPP」「オリンピック」「食の安全性」「韓国・中国との領土問題」「秘密保護法」「ネルソン・マンデラ」「インターネット」「車の未来」「サッカー」「野球」など、この期間のトピックスが並び、バラエティーに富んだものとなった。

広報委員には「テーマを選んだ理由」「テーマの説明」「新聞切り抜きのポイント」「テーマのメリットとデメリット」「テーマの問題点」「このテーマは今後どうなるか」をまとめさせた。

### 【評価】

壁新聞を①「定点観測」になっているか？（テーマについて追いかけて、その変化・結果をまとめているか）②レイアウトはどうか？の2つの観点から、教師と広報委員で採点し順位を決めた。

今後は、優秀班をクラスや学年でのプレゼンテーションにまで高める内容にしていくことを検討している。

### NIE記者派遣について

11月8日6限（1時間）に日本経済新聞神戸支社の長谷川岳志支局長に来ていただき、本校1年生（320人）を対象に講演会を行った。1年生は総合的な学習の時間の中で1年間、定期的にコラムや社説を読み、新聞に親しんできたが、さらに新聞に対する見方を深めるため、この講演会を11月に設定した。

講演プログラムは、①新聞はどうやってできる？②高校生の新聞の読み方③スクープって何？④電子版についてと予定され、実際の講演の中では「主要ニュースは1面に掲載」「見開きでは左面の方が重要」など新聞記事の構成を紹介、ネットで知ったニュースを新聞紙面で追いついて、興味のある記事を最後まで読んでほしいなどと話された。

また日経新聞を配布していただき、全員が講演後すぐに紙面に目を通すことができ、生徒の印象にも残った。

### 【生徒の感想（抜粋）】

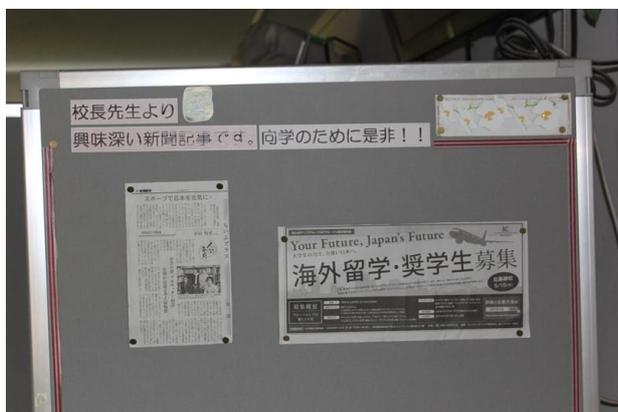
・日本で新聞を取っている家は年々減っていると

聞いた。私の家も少し前に新聞を取ることがなくなつた。今日いただいた新聞をパラパラとめくってみると興味のわいた記事がたくさんあった。最近世の中でこういうことが起きているのだと知る事ができて、読んでみるととても楽しいのに、新聞を読んでいないのはもったいないと思った。

・新聞について今まで知っていたつもりだったが、今回の話を聞かせていただいて、色々なことを教えていただけた時間だった。私も毎日、新聞をめくだけでも読んでみようと思った。

・新聞社の仕事はすごく大変そうだけど、やりがいのありそうな仕事だと思った。将来、出版関係の仕事に就きたいと思っているので参考になった。

#### 校長先生のコーナー



生徒昇降口からHR教室のある本館へと続く、生徒たちの一番の生活動線である本館1階入り口にこの写真の掲示板があり、「校長先生より」というラベルの下に、日々入れ替わる新聞記事のコーナーがある。

校長自らが興味のある事柄や、生徒に読んでほしい記事を掲示し、生徒が足を止め記事に見入る

姿が頻繁に見られる。

#### (3) 実践の成果と課題

生徒に主体的に取り組ませられなかった昨年度の反省から、本年度は広報委員を中心に日々の新聞の整理などを行わせた。総合的な学習の時間を中心に新聞を取り入れた授業に学校全体でも取り組むことができた。また2年目ということもあり、教師たちの間でも新聞学習に対する話題が増えるようになった。

今後は本校の教育課題でもある、生徒が自主的に考え、視野を広げ社会の一員として行動していけるよう、その社会との接点に触れるきっかけとして新聞を積極的に取り入れる授業の企画、また広報委員や担当教師による新聞の発行や、新聞コンクールなどへの参加を促すなど、楽しみながら新聞と親しむ工夫も重ねたい。